

# 関西いのちの電話

こころがつかれたら…06-6309-1121

自殺予防いのちの電話(フリーダイヤル)0120-738-556  
毎月10日 午前8:00～翌日午前8:00



「生きていれば、ええこともあるぜよ!」

関西いのちの電話 理事 さいとう はじめ  
齊藤 壹

数年前、百歳に近い生涯を終えられた聖公会の数少ない修道女が坂本龍馬の姉・岡上乙女の孫であることを聞いていたので、あまり見なかったNHK大河ドラマ「龍馬伝」を見ています。

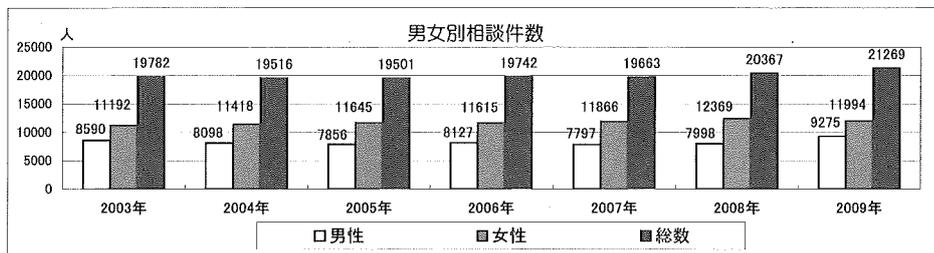
土佐から江戸に出た龍馬は、千葉周作の弟が開く「千葉道場」で、また彼には兄的存在の武市半平太も「桃井道場」で剣術修業に励みます。ある時、攘夷論に傾倒する武市を慕う土佐出身の門下生が酒宴の帰路、酒癖の悪い仲間と商家の使用人に絡み、絡まれた男は貴重な懐中時計を落とすしまうのです。被害者は、男たちが交わす会話の中から、その一人が山本琢磨という名前であることを記憶しており、商家の主人はお上に訴え出ると言い出したのです。武市と彼の上司はこれでは攘夷の理想が土佐藩で進められなくなると、山本に切腹を命じます。しかし、既に時計は落とし主に戻ったことを知った龍馬は、穏便な処置を武市に求めます。龍馬は一人で商家の主人の所に詫び

に出向き、土下座して謝り、事態の経緯を話しましたら、その主人は切腹までする話ではないと許してくれたのです。しかし武市たちはそれでは済まない状況になっている中、龍馬は山本に「死ぬな！生きていればええこともあるぜよ」と諭して密かに逃すのです。その日のドラマはこれで終わりましたが、終了後に東京神田のニコライ堂（復活大聖堂）が映し出され、解説が続きました。それによると龍馬に助けられた山本琢磨は、その後北海道へ渡り、そこでロシア正教会のニコライ大主教に出会い、その崇高な人格に触れて洗礼を受け、武士をやめ、後にロシア正教会最初の日本人司祭となり、ニコライ堂の建設にも加わっていたのです。

今、私の龍馬観は「出会いの名人」です。そう、電話相談も、つまるところ“出会い”です。良い“出会い”に力を注ぎましょう。

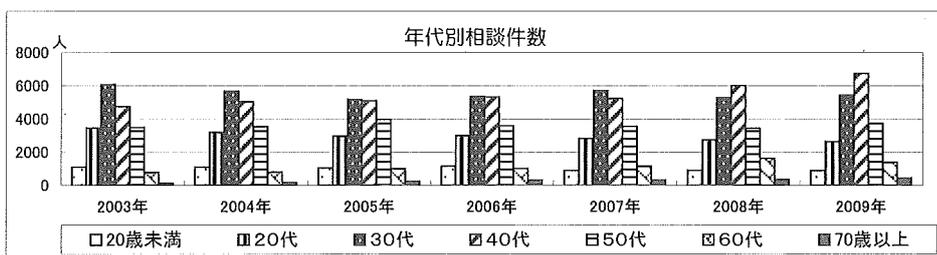
## 関西いのちの電話『受信状況』

①男女別相談件数(2003年～2009年)



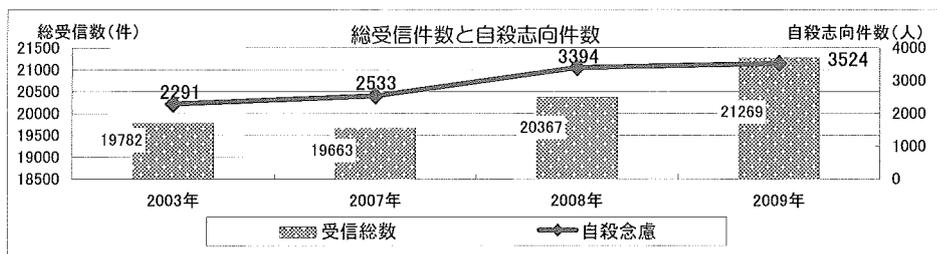
\* 関西いのちの電話の相談件数は2009年は21,269件になった。  
 \* 男性からの相談が2008年は全体の39%だったが、2009年は44%になり、2008年より5%増えた。

②年代別相談件数(2003年～2009年)



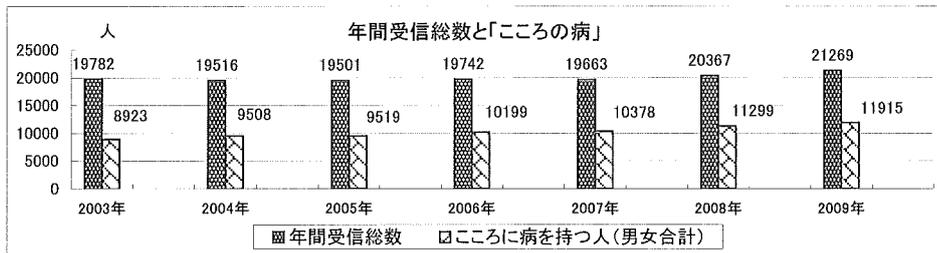
\* 年代別ではいずれの年も30歳代と40歳代からの相談が多い。  
 \* 2009年は40歳代の相談が増加した。

③総受信件数と自殺志向件数(2003年と2007年、2008年、2009年の変化)

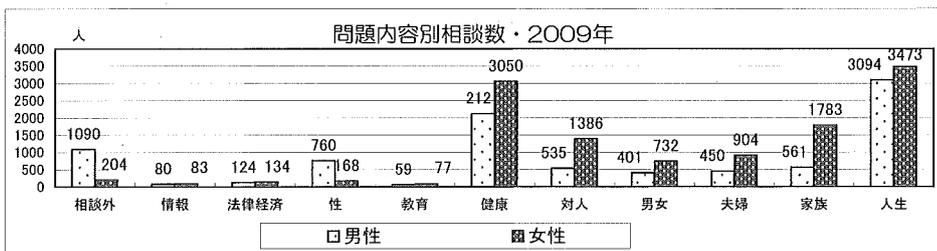


\* 2008年の自殺志向件数は3,300件を越し、2009年は3,500件を越えた。

④年間受信総数と「こころの病」(2003年～2009年)



⑤問題内容別相談数(2009年)



## 「資金ボランティアプロジェクト」がスタートします

社会不安が膨らむ中で、我々の活動の必要性は益々高まるばかりです。しかし財政面でその運営はけっして楽ではありません。そこで、すでにご協力いただいている個人・法人の皆様に対する「賛助会員」へのお願いとは別に、「資金ボランティア」の募集活動を開始することになりました。

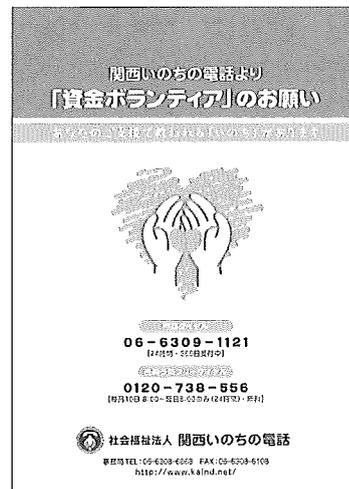
「資金ボランティアプロジェクト」とは、時間や労力を提供し、相談員として活動することはできないけれど、自殺予防の活動には関心もあり、協力もしたい、という方に、可能な範囲での資金提供をお願いし、我々と等しく「関西いのちの電話」のボランティアとなっただけ、継続的な支援をお願いしていこうというものです。

まだ、取り組み始めたばかりなので、果たしてどの程度の成果が期待できるのか、全く予想が付きません。しかし、実際に電話を受ける「相談ボランティア(相談員)」と財政面で支えてくださる「資金ボランティア」、この両輪がそろってこそ、いのちを救う活動を安心して継続していくことができるのではないのでしょうか。

どうか皆様の周りの方「資金ボランティアになって

いただけませんか?」とお声を掛けてください。ご協力をよろしくお願いいたします。

(対外協力委員会)



### 皆さまのご協力を感謝申し上げます

社会福祉法人「関西いのちの電話」の2009年度 決算報告がされ承認されました。この1年間のみなさまのご協力に対し感謝申し上げますとともに今後ともご支援いただきますようお願い申し上げます。

#### 2010年度 社会福祉法人 関西いのちの電話 収支決算

(自)2009年4月1日 (至)2010年3月31日

勘定科目	決算額
事業収入	5,830,834
収 経常経費補助金収入	2,360,600
寄付金収入	8,599,383
会費収入	4,295,030
寄付金収入	4,304,353
入 雑収入	1,173,553
受取利息配当金収入	39,369
計	18,003,739
人件費支出	7,037,609
支 事務費支出	6,124,311
事業費支出	4,279,576
出 計	17,441,496
収支差額	562,243

詳しくは、2009年度事業報告書をご覧ください。

### バザー開催のお知らせ

日時 11月6日(土)10:00~14:00

場所 博愛社内

ドッグショーやキッズコーナーなど

趣向をこらしてお持ちしております!!

### 24時間・365日「眠らぬダイヤル」として 相談活動をおこなっています

皆さまのご支援が いのちをつなげ、電話をつなぎます。

活動資金が必要です。いのちの電話の活動を支えてください。

□座名義：社会福祉法人・関西いのちの電話 理事長 李清一

□座番号：郵便局 00990-3-68480

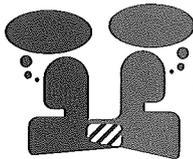
：三井住友銀行 十三支店(普)998829

※社会福祉法人へのご寄付は税制上に優遇されます。

「関西いのちの電話」ホームページ/<http://www.kaind.net>

夏期募金をおねがいします





## 傾聴と共感 (5)

## 「純粋性」

「純粋性(自己一致)」、「受容(無条件の肯定的配慮)」、「共感的理解」というカウンセリングの三条件を提示したのは、カール・ロジャーズです。電話相談のかけ手と聞き手の関係づくりにも欠かせない条件です。しかし、今まで共感と受容に重点を置きすぎていたようです。多分それは「純粋性」ということが少し分かりづらかったからでしょう。

最近、ロジャーズの理論が見直され、「純粋性」の重要性が注目されています。

「純粋性」とは、聞き手が自分の中で体験していることへの照合作業をすることと、それを必要に応じて、相手に対して自己表明することです。

体験していることとは、電話相談の「今、ここ」の場で、聞き手の中に起こっている感情の流れです。聞き手が自分の気持ち、感情に気づき、意識化し、必要であればそれを表明することです。ロジャーズは、関係を破壊すると懸念される否定的

な感情であっても、聞き手だからという役割の仮面をかぶって、偽りの受容的態度を示すよりは、それを相手に伝える方がよりリアルで真実な関わりを築くことになると思います。

電話相談のやりとりの中で、聞き手が怒りを感じたとするとそれを隠すより、正直に表明することがお互いの人間的成長を促進することにもなるのです。

電話相談の聞き手はいわゆる専門家にならないでほしいというのは、生身の人間つまり「真実の人間」であることを優先してほしいからです。

聞き手は、「今、ここ」感じていることに気づき、その感情を自分のものと認め、それを率直に伝えるにはどう表現するかを数種類の選択肢から選んで、表現する。その前提としては、相手が受け取りやすい表現方法の種類を日頃から練習しておく、的確な応答を選択することに役に立つでしょう。傾聴と共感とは、この「純粋性」を土台として実践されると、より質の高いものとなるのです。

(長尾文雄)

社会福祉法人関西いのちの電話 第15回チャリティコンサート

## 小林道夫・桐山建志 ジョイント・コンサート

日時：2010年7月31日(土)

開演：午後4時30分(開場 午後4時)

場所：いずみホール

(大阪府中央区城見1-4-70/JR大阪城公園より徒歩約3分)

チケット：前売り券 2,500円 (当日 3,000円)

チケット取り扱い：いずみホール チケットセンター TEL06-6944-1188

関西いのちの電話事務局 TEL06-6308-6868

### 編集後記

じめじめと蒸し暑い梅雨が続きます、皆様にはお変わりございませんか。今回は前年度締め括りの収支決算・相談実績と、本年度新規事業の資金ボランティアの記事を掲載させていただきました。皆さまの温かいご支援を数字で感じます。どうもありがとうございました。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

新しき 長靴光る 孫の梅雨 (E.I)

### 電話相談受信状況

受信月	2月	3月	4月	5月
受信件数	1,573件	1,811件	1,882件	2,120件
相談員数(延)	381人	464人	489人	524人

### 社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72

TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180

発行人 李 清一 編集 広報委員会

ホームページ <http://www.kaind.net/>